

大志を育む



平成 28 年 6 月 16 日

(教職員向け)
教育委員会だより
No. 3

発行：北広島市教育委員会

道徳教育の魅力

北広島市教育委員会 特別支援教育アドバイザー 館岡 道宏

道徳については、北広島市学校教育の推進方針の中で、『考え議論する道徳授業の実践と積み上げ』を実践の具体的な手立ての柱の一つとして掲げております。また、平成30年度（中学校は31年度）からは、「特別の教科 道徳科」として道徳が教科化されます。私は教師の時代、「道徳の時間」が大好きでした。これまでの実践の中から、道徳教育への思いを少し書かせていただきたいと思います。

(1) 「命」に繋がる道徳

私は道徳すべてが「命」に繋がっていると思います。是非、先生方にもほとぼしる命への思いを道徳の授業にぶつけてほしいと思います。たとえば、「友情や信頼に関すること」「公德心」「社会連帯」「自主自律」「生命尊重」「自然愛護」「誠実」「責任」…これら全てが「命」に通じる価値なのです。別の言い方をすれば、「健全な自尊感情を育む」「規範意識を育む」「人間関係を築く力を育む」視点を内在しているのです。

ですから、どんなことでも教材になります。サザエさんだって、ドラエもんだって教材になるのです。

(2) 今の時代だからこそ

道徳は、学校の教育活動全てにおいてなされるべきものという考えがありますが、校内暴力・不登校等で学校が揺れ動いた平成初期の頃より、「心の教育」の重要性が叫ばれ、「道徳の時間」を効果的に活用し、子どもたちの実情を踏まえた授業が積極的に構築されるようになってきました。私も「日々の指導が道徳である」と自負していた時代がありました。ところが、ある小学校で道徳の研究会を行うことになり、研究部長に抜擢され、否が応でも勉強しなければならない立場となり、道徳授業のあり方について学んだとき、それまでの自分の先入観がいかにいい加減なものだったかを痛感した思い出があります。

(3) 道徳の授業は面白い

特に若い先生方に言いたいのですが、道徳の授業は面白いのです。何が面白いかといえば、正解が多様にあるということ、教師自身の人生を投影しながら授業を構築できるということ、教師自身の人間性も豊かになっていくということ、宝石のような素材がいたるところに散らばっているということ、子どもたちが生き生きと本音で語ってくれるということ等の理由からです。心を揺さぶる教材を使い、子どもたちといろいろな意見を出し合いながら一緒に考える授業をしていくと、道徳の授業の中で子どもたちの目が輝くのです。教材によっては涙する子どももいるのです。

1週間に1時間の道徳の時間が、私も子どもたちも待ち遠しく思えるようになりました。

(4) 多様な資料の教材化

教材化する資料は多種多様にあります。副読本はもちろんのことですが、一枚の写真からでも、新聞の切り抜きでも、胸を熱くした本からの抜粋でも、心揺さぶる詩でも、映画・ドラマでも、日ごろから教師はアンテナを高くし、ちょっとした資料や情報を蓄えながら、「いつかこの資料を使ってみたい」という思いをもつことが大切だと思います。そして自分の感性で集めた資料に惚れ込むことによって、その心が子どもたちに伝わっていくのです。最後に、私が教材化した資料の中で、副読本以外で特に印象に残っているものを紹介したいと思います。『象の背中（アニメ）』・『盲導犬とともに（体験）』・『ホタルの墓（映画）』・『わたしのせいじゃない（絵本）』・『義足の少女の作文（新聞記事）』・『友の肖像画（文部省資料）』

学校力向上研修発表会



平成28年9月16日（金）午後

研究主題

自己有用感に裏付けられた自尊感情を持つ子どもの育成
～道徳科を要とした道徳教育の充実を通して～

I 本研究会のおさえ



自主 自主公開として

実践校 「学校力向上に関する総合実践事業」の近隣実践校として
地域連携研修 道教委が主管する「地域連携研修」の「局独自課題」として

- 1 学校課題「有用感に裏付けられた自尊感情を持つ子どもの育成」に向かうために、アンケート結果、本校の道徳科の重点、授業作りの重点を踏まえた研究発表とする
- 2 研究テーマ初年度であることから、授業の実際と子どもの姿を通して、多くの示唆を頂き、今後の研究に生かす
- 3 コーディネーター藤平氏の講演から学校力、道徳教育、生徒指導について学ぶ

II 研究会の内容

◆道徳授業公開・全体会・分科会

◆基調講演 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

藤平 敦 氏

【藤平 敦 氏】学校現場の実践経験に裏打ちされた理論的側面においても豊富な知識をお持ちです。児童生徒の規範意識や、中間リーダーを軸とした生徒指導体制のあり方等を研究課題としておられ、現在は、生徒指導に関する国の施策等でもご活躍されておられます。※魅力ある学校づくり調査研究事業担当

（著書）

- ・「生徒指導提要」 文部科学省 平成 22 年 5 月
- ・「生徒指導の本来の趣旨を踏まえた教育活動の推進」『学校教育研究 26』日本学校教育学会編 平成 23 年 7 月 等

【文責 学校力向上CO 近藤猛彦】

道徳教育と公開研究会開催への思い

大曲東小学校 校長 高秀 愛司

今年度、本校の学校課題「自己有用感に裏付けられた自尊感情を持つ子どもの育成～一人一人が主役である東小の子・感動・歓働・汗動のある学校を創造する～」を設定しました。これは、「明るく素直で、黙々と指示されたことをやり遂げる子が多い。また、地域連携での挨拶運動の成果から立ち止まって挨拶する子が増えてきている。反面、挨拶のできない子もいる。照れ屋や人見知りの子も多く、コミュニケーション能力に課題が見られる。複雑な家庭事情を持つ子や経済的に厳しい状況にある家庭の子もいる。規範意識が薄く、自尊感情の低い子が多い。」という各種調査やアンケートからの本校の児童の実態分析から導かれたものであります。

この学校課題の解明に向けて、本校の教職員は、新年度計画の時点から各分掌部会で本校の児童が自信を持ち、学校生活を有意義に過ごさせるにはどのような教育活動に取り組みばよいのか、どんな具体策を持ち自尊感情を育成すればよいのかを懸命に考え、様々な立案をして教育活動を展開しています。そして、学校課題解明の中核とともに学校力向上の柱の一つでもある「道徳教育の充実」を研究主題に据えました。本校の道徳科の重点項目並びに内容項目を明らかにした授業作りをするとともに、自己有用感の裏付けを常に意識し、全教育活動における道徳教育を展開することによって、必ずや大曲東小の子ども達に自尊感情を育成できるという結論に達しました。3カ年計画の道徳教育の研究ではありますが、初年度に公開研究会を設定することによって初年度だからこそ、多くの研究内容や授業のあり方、方向性を指摘していただけるものと思います。そして、近い将来、確かな自尊感情と自信を持った「東小の子」と、そこに至るまで力強く指導し続けた研究集団東小教職員の存在が確認できるものと信じております。

尚、基調講演をお願いしている国立教育政策研究所の生徒指導・進路指導研究センター総括研究官の藤平 敦先生の講話は、現場で汗を流す真摯で情熱溢れる先生方に必ず勇気とやる気を与えてくれる内容であります。是非、9月、半日の研究会ではありますが、多くの先生方に来校いただき充実した時間を共有して頂きたく参加のお願いを申し上げ、擲筆いたします。